

適用

学んだ知識を地域の自然に当てはめて考える

1 単元名 流れる水のはたらき（第5学年）

2 指導のねらい

これまでの学習内容を生かしながら、川のカーブに注目して地域の川での危険な場所を考えることができるようにする。

3 実践の内容

第5学年「流れる水のはたらき」〔全12時間〕（本時2／3時）

第1次（2時間）

川の流域によって、河原の石の大きさや形に違いがあることを理解する。

第2次（5時間）

流れる水には浸食・運搬・堆積のはたらきがあることを理解する。また、水の量と流れる水のはたらきとの関係について、実験結果を実際の川に当てはめながら考え、増水によって土地の様子が大きく変化する可能性があることを理解する。

第3次（2時間）

川の水による災害や、災害に対する備えについて調べたり、考えたりして、災害に対して備えることの重要性に気づく。

第4次（3時間）

【学習活動】

1 実際の川を観察して、川の様子や流れる水のはたらきを調べる。

2 地域の川の地図を見て、これまでの学習をもとに、危険な場所を考える。

3 流れる水のはたらきについて、学習したことをまとめる。

（1）本時の学習の流れ

- ① これまでの学習を振り返り、流れる水のはたらきを確認する。
- ② 地域の地図を見て、起こりうる危険を予想する。
- ③ 危険な場所とその理由を考え、地図に記入する。【適用】
- ④ 考えた場所とその理由について、発表する。【適用】
- ⑤ 実際に市が災害に対し行っている対策を紹介し、自分の考えと比べる。

（2）授業の実際

問題

地域の川の危険な場所は、どこだろうか。



地図を見て、危険だと思う場所を考えましょう。また、そのように考えたわけも書きましょう。

浸食のはたらきはカーブの外側ではたらきが大きかったから、カーブの外側が危険だと思うよ。



2本の川が合流するところも、水の量が増えて危険だと思うな。



危険な場所とその理由を考えている様子



考えを交流している様子

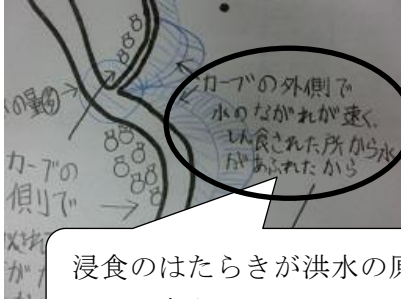
指導のポイント

- ① 「危険」という言葉が増水時に起こりうる危険であることを全体で確認し、共通認識をもつ。
- ② 危険な理由を書くときには、流れる水のどののはたらきが関係しているのかを記すように助言する。
- ③ 実際に行われている災害の対策を紹介する。



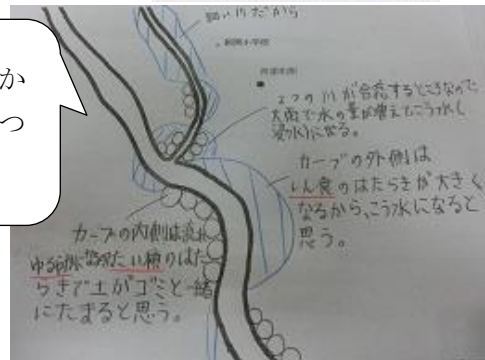
<児童のノートの記事より>

① 考えを記述する欄



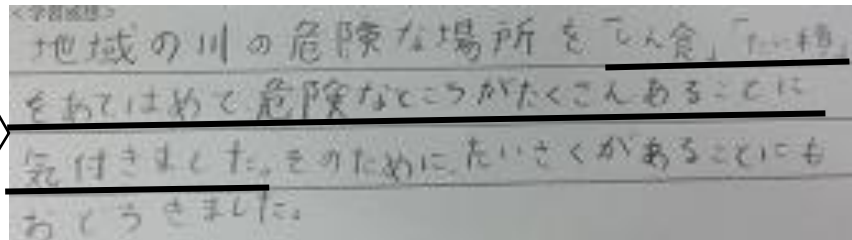
浸食のはたらきが洪水の原因になることを考えている。

前時までの学習を生かし、多くの可能性について記述している。



② 児童の学習感想

学んだ言葉の意味を理解し、それを基に危険な場所を探そうとしたことが分かる。



4 成果と課題

本実践より、身近な自然を学習の教材とすることで、児童の関心が高まり、意欲的に考えを発表することが分かった。また、その後の単元でも、問題に対して予想や考察をするときに、授業で学んだことを生活に当てはめて考えることができる児童が増えた。

全ての児童が生活に当てはめて考えられるように、基本的な学習内容については繰り返し指導を行い、十分に理解させて望むことが重要であると言える。 (田中 麗)